

| 教科 | 科目 | 単位数 | 学年 | 学科 | 区分 | 使用教科書 |
|----|--------|-----|-----|-------|----|----------------|
| 工業 | 工業数理基礎 | 2 | 3,4 | セラミック | 選択 | 工業数理基礎 実教出版 |

1. 学習の到達目標

工業の各分野における事象の数理処理に関する知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。

2. 学習の評価

| 評価の観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 技能 | 知識・理解 |
|-------|--|---|--|---|
| 評価の規準 | 工業の各分野における工業事象の数理処理について関心をもち、基礎的な数式の活用や情報処理機器を意欲的に活用し、合理的に数理処理を行う実践的な態度を身に付けている。 | 工業の各分野における工業事象の諸問題の解決を目指し、適切な数理処理を通して、自ら思考を深め判断し、その結果を積極的に相手に表現できる能力を身に付けている。 | 工業の各分野における工業事象を迅速かつ合理的に数理処理する実際的な数理処理能力を身に付け、その成果を的確に活用する。 | 工業の各分野における工業事象の合理的な数理処理の知識を身に付け、実際に活用して工業技術の諸課題を主体的に解決し、工業の意義や役割について理解している。 |
| 評価の方法 | 授業態度、定期考査、課題・宿題・ノートなど提出物の状況などを総合的に判断して評価します。 | | | |
| 評価の割合 | 20% | 20% | 20% | 40% |

3. 教科からのメッセージ

この科目の目標を達成するために、工業事象を数理処理するには、数学、物理及び化学の理論を「道具」として活用していくことが大切です。工業の各分野の事象がどのようなものであるかを様々な事象を元に理解していきましょう。